



Title	「文化」の解釈(16) : 文化と権力 はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2016, 2015
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57364
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2015」の一環として、「〈文化〉の解読 (16) ー文化と権力ー」という名称の下、合計 4 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、3 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名は同志社大学グローバル地域文化学部の教員である。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」(2000 年度)、「〈文化空間〉の政治学」(2001 年度)、「文化の政治性／政治の文化性」(2002 年度)、「文化批判の機能をめぐって」(2003 年度)、「文化生産の諸相」(2004 年度)、「文化受容のダイナミクス」(2005 年度)、「システムとしての文化」(2006 年度)、「想像力としての文化」(2007 年度)、「文化とアイデンティティ」(2008 年度)、「文化と身体」(2009 年度)、「文化とトポス」(2010 年度)、「文化と歴史／物語」(2011 年度)、「文化とコミュニティ」(2012 年度)、「文化と公共性」(2013 年度)、「文化と翻訳」(2014 年度)。16 年目となる 2015 年度は、「文化と権力」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 4 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、道教（老子と荘子）の初期のテキストのなかに、道教的な国家・支配理論に援用しうるような要素が存在しているかどうかを吟味している。阿部論文は、右傾化するポーランドにおけるドイツ人少数民族のスタンドポイントと、ポーランド社会における少数民族法の意義を論じている。津田論文は、村上春樹の連作短編小説集『神の子どもたちはみな踊る』に、デタッチメントからコミットメントへの移行の過程と、壁＝システムではなく卵＝個人へのコミットメントの可能性を読み取ろうとしている。山本論文は、2010 年代前半の 3 本のドイツ＝トルコ映画をとりあげ、女性像という観点から分析している。

本冊子が、文化研究へのささやかな寄与となることを祈念しつつ。

2016 年 4 月

執筆者一同